

# 令和元年度事業報告書

社会福祉法人 埼玉医療福祉会

# 概況

令和元年度は前年度に引き続き、3つの経営課題である『収支バランス改善、人材確保等によるサービスの質向上、社会変化への対応』を実施し、加えて広域的な地域包括ケアシステム構築に向けて前進した年になりました。

まず、在宅療養支援診療所では、埼玉県初となる緊急往診車両（ホスピスカー）を5月に運用を開始しました。令和元年度の実績では年間50件の緊急出動に対応し、より充実した在宅医療を実現できるようになりました。

丸木記念福祉メディカルセンターでは10月に地域包括ケア病棟の稼働を開始しました。任される役割は、地域包括ケアシステムの中心となり、急性期治療後の継続加療・在宅復帰支援帰宅支援を行うことのほか、在宅・施設にいる患者の病状悪化に対応し、医療と介護の切れ目のないサービスを提供いたします。

地方自治体との連携では、令和2年3月に『越生町との連携・協力に関する包括協定』を締結しました。広域的な地域包括ケアシステムの構築と官民連携の推進に寄与することを目的としており、これまでの取り組みをさらに充実させ、医療・福祉・介護等の面において連携を強化していく予定です。

以上、令和元年度は地域包括ケアシステム構築に向けて、大きく前進した年になったと言えます。そして、令和2年度以降も医療と福祉の理想郷を実現するため、引き続き地域包括ケアシステム構築に向けて、様々な人や施設と手を取り合い、システムの強化を行っていきます。

また、新型コロナウイルス対応としては、病棟部門では面会禁止、HAPPINESS 館におけるフィットネス事業を休止、通所系の福祉施設については一部利用を制限するなど、慎重な運営を行っております。

結びに、埼玉医療福祉会は基本理念と基本方針、役割、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」を実践することにより、医療福祉サービスの質の向上を図り地域福祉の充実に貢献するとともに、高い公共性と倫理性をもって、安心した働きやすい職場づくりと適正かつ活力ある法人運営に努めてまいります。

## 1. 基本理念

『限りなき愛』

《ミッション》

Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS

## 2. 基本方針

- ① すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
- ② 安全で質の高い医療・福祉を実践します。
- ③ 地域の医療・保健・福祉機関との連携を密にします。
- ④ 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
- ⑤ 埼玉医科大学病院群との連携を密にし、第4病院としての使命・質の向上を図ります。

## 3. 役割

- ① 地域包括ケアシステムの中核的病院・福祉施設としての役割
- ② 埼玉医科大学病院群の第4病院としての役割
- ③ 福祉施設の関連病院としての役割
- ④ 行政の委託機関としての役割
- ⑤ 実習施設としての役割

# 法人部門

## 1. 運営実施状況について

### ① 顧客の視点

- ・ケアワーカー、療育員の求人对策として、埼玉医科大学グループ医療・福祉就職説明会を令和元年8月7日と令和2年1月14日に開催した。
- ・広域的な地域包括ケアシステムの構築と官民連携の推進に寄与することを目的に、令和2年3月27日付けで越生町との連携、協力に関する包括協定を締結した。

### ② 業務プロセスの視点

- ・外国人介護人材受入れの一環として「在留資格介護」を目指す留学生3名、「特定技能1号」2名、計5名のベトナム人を受け入れた。また令和2年度中に「EPA」1名(3人目)を受け入れることが決定した。今後引き続き外国人人材の受け入れ体制の構築を図るため、埼玉医科大学と協力して取り組み、将来的に外国人労働者の就業率を高めていく。
- ・患者(利用者)負担金に関わる口座振替制度の新規導入及び推進強化を進め、利用料回収に効率化に努めた。
- ・AI、ロボット、IoT等の活用推進に取り組んだ。ナーシングヴィラ本郷ではロボット掃除機のテスト導入を行い、令和2年度も様々な機器の導入を促進し、業務効率化と同時にサービスの質向上に努める。
- ・令和元年度もケアワーカー、療育員を中心とした採用活動を実施した。

### ③ 財務の視点

- ・月次決算を用いた施設別収支管理の徹底及び精度向上に向けた取り組みを強化し、収入強化策や経費削減の指標としてのシステム構築に尽力した。
- ・令和2年4月看護要員配置基準と配置状況、必要人員数の策定、適正な人員配置及び人件費を精査し、経営判断の指標として活用した。
- ・介護職員処遇改善加算金の各事業所からの配分案を取りまとめ、遅滞なく行った一方、令和2年度処遇改善計画書及び新設の特定処遇改善計画書を策定し、4月に行政に提出する。

### ④ 学習と成長の視点

- ・介護職員の採用・定着・育成及び介護福祉士取得の促進を目的に介護福祉士養成実務者研修施設に係る申請を行い、令和元年12月3日に認可を取得した。予定通り令和2年4月1日に開講し、28名の法人職員が受講することとなった。
- ・職員の多能化を見据えた担当業務のローテーション、業務標準化を目的に法人事務局内で配置換えを実施した。
- ・資格取得の促進に努め、1名が社会福祉会計簿記認定試験(中級)を取得した。

# 丸木記念福祉メディカルセンター

## 1. 精神科部門

令和元年度は精神科に関わる個々のスタッフの尽力もあり、精神科病棟、精神科療養病棟、合併症病棟、地域移行機能強化病棟の全ての病棟は、95%以上の高稼働を維持した。

次年度も精神科一同気を引き締めて地域の精神科医療の要としての使命を果たしていく。

## 2. 一般科部門

令和元年度も安心・安全で満足度の高い思いやりある医療の提供ができたとともに、入退院の迅速化と病態の変化に応じて各病棟と適切な連携を行うことができた。

病床稼働率については、内科病棟は 95.6%(前年度比: +1.0%)と前年度と比較して上昇し、回復期リハビリテーション病棟は 96.9%(前年度比:  $\Delta$ 0.2%)と落ち込んでいるが、両病棟ともに前年度と同水準で稼働している。また、回復期リハビリテーション病棟は在宅復帰率等の各種実績で高い数値を記録し、入院料のランク1を維持している。

緩和ケア病棟の稼働率は、80.0%(前年度比: +0.8%)と一昨年の稼働率 73.6%を底に、回復傾向に転じている。この流れを止めないためにも、他職種とのさらなる連携強化を図る。

そして、精神科並びに関係部署の協力もあって地域包括ケア病棟を 10 月から予定通りはじめることができた。地域包括ケア病棟の円滑な運営と高稼働を維持していくため、関係部署や関連施設との連携をさらに強化するとともに、広域的な地域包括ケアシステム構築の一端を担っていく。

## 3. 介護老人保健施設薫風園等

令和元年度も、薫風園施設としての役割を果たすべく、法人の基本理念・基本方針・役割・法人全体の事業計画を踏まえ、各種事業を展開した。

稼働状況については、介護老人保健施設は入所(短期入所含む)が 71.7%(前年度比:  $\Delta$ 14.2%)に落ち込んだが、通所リハビリ・予防通所リハビリは前年度比で15,163人(前年度比: +1,746人)と利用者数が約13%上昇し、入所の落ち込み分をカバーした形となった。デイサービスの利用者数は前年度と比較して微増ながら4,027人(前年度比: +131人)と約3%上昇している。しかし、ケアハウスは一昨年の稼働率は87.7%を記録していたが、前年度84.1%、今年度80.3%と下降傾向にある。入所、ケアハウスの稼働を持ち直すためにも、職員間でのアイデアの共有や広報活動の強化で利用者数の確保、さらには地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・生活支援・介護予防等、当法人の特性や強みを生かし、各種サービスの提供と質の向上に取り組む。

## 4. 暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館

暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館の開館から2年半が経過した。令和元年度は埼玉県初となる緊急往診車両(ホスピスカー)の運用が開始され、訪問診療医も3人体制となり、在宅療養支援診療所も安定稼働に至っている。また、丸木記念福祉メディカルセンターでは地域包括ケア病棟が10

月に始まり、在宅療養支援診療所と他施設との連携による広域的地域包括ケアシステムの重要性がますます高まっている。については、HAPPINESS 館職員のみならず他施設や地域との連携を強化して課題に取り組み、広域的地域包括ケアシステムを早期実現するよう尽力する。

## 5. 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷

令和元年度も法人の理念である「限りなき愛」、そしてミッションである「Your Happiness is Our Happiness」に基づき、「ご利用者・ご家族・地域社会から信頼され、安心してご利用いただける施設」を目指し、職員一丸となって介護サービスの提供に努めた。

しかし、事業継続の観点では新型コロナウイルスの流行により問題点が明らかになった。職員が個々の業務を抱えている状況で感染が確認された場合に業務継続が難しくなること、業務の標準化及び職員のバックアップ体制を整えることの必要性を再認識した。

感染拡大による事業の停止で最も不利益を被るのは利用者であり、事業継続のためにも感染リスクを職員一人ひとりが認識し、事業を滞らせない盤石な組織体制の整備に取り掛かる。

## 6. 地域活動支援センターのぞみ

令和元年度は、第6期長期総合計画「飛翔」の2年目の年であり、「医療と福祉を融合した理想郷」実現に向けて業務を行ってきた。また、事業計画・基本方針を踏まえた当センターの役割を果たすべく尽力した。

これからも地域活動支援センターのぞみではスタッフの資質向上に努め、障害福祉に関する情報発信や、家族会、他機関に対しての講演会の開催などの普及啓発活動にも注力し、地域の福祉施設としての役割を果たしていく。

## 7. 障害者自立支援施設やすらぎ・グループホームいこい

平成30年度は障害福祉サービス事業改定により、就労率計算が変更され報酬が低下したこと、近隣市町村に競合施設が増えたことによる利用者の獲得競争に晒された。その結果、事業・収入構造を見直す必要が生じたため、令和元年度は就労移行支援の廃止と生活訓練の定員増(24名→30名)を行った。

今後も事業・業界の動向を注視しながら方向性を決める必要があるが、まずは宿泊型自立支援と生活訓練、グループホーム事業に注力し収支を安定させることを目標とする。

そのためにも、職員一丸となって各種加算の取得や職員のスキルアップによる業務の効率化、利用者獲得のための各施設との連携強化や広報活動に努める。

## 8. 毛呂山町老人福祉センター山根荘

令和元年度:利用者数 19,113名、一日平均 85名(平成30年度:利用者数 19,962名、一日平均 81名) ※令和2年3月3日より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休所しております。

令和元年度は、健康麻雀や山根荘フィットネス・くらしワンストップ MORO HAPPINESS 館との共同企画(ミニシアターや太極拳)・出前講座(笑いヨガ)等で、利用者の増加を図り、同時に社会福祉法人として利用者の健やかな生活を支え、安心につながる相談などが気軽にできる体制づくりを進めた。

次年度も、くらしワンストップ MORO HAPPINESS 館との共同企画に力を入れ、利用者の活動の場を広げ満足度を高めていく。引き続き、利用者の興味を惹くような魅力ある講座や催しを開催し、地域住民が健やかに暮らす一助になれるよう取り組んでいく。

## 光の家療育センター

光の家は開設 53 年を迎え、入所利用者が年々高齢重度化していく中で、職員の看護・介護負担が増大している。それに加えて少子高齢化の影響で働く職員の確保が困難な状況にある。それに対応するため、この数年は職場環境改善、職員育成支援、オール埼玉医大で求人活動に尽力した。その結果、職員負担の軽減やモチベーションアップにつながり、運営面では各リーダーと現状を共有し、若年層利用者の長期入所を受入れたことで年間の稼働率が 98% を上回る事ができた。

しかし、今年度終盤の 2 月頃からは新型コロナウイルスによる感染拡大により、これまでに経験をしたことがないような社会状況となり、施設でも面会や外出の禁止等の施設活動を停止する事態となった。短期入所事業は受入れを中止し、外来及び在宅支援事業は利用制限を設けて実施している。2 月以降は感染防止を最優先・最重要事項として取り組み、職員一同が団結して、感染者を出さないように努めている。

## 看護専門学校

令和元年度については、より優秀な学生確保のため、募集活動等を主要課題として実践した。令和 2 年 4 月から開始する「高等教育の修学支援新制度」について認定を受け、学生確保の取り組みを強化した。

日常の学校教育については、学生一人ひとりの特性を尊重し学習の支援を行い、専門知識や技術習得を学ぶだけでなく、社会人としての教養と豊かな人間性、専門職業人としての倫理観の育成を目指し、学生支援を行う事などを教育の基本方針として実践していく。

### 学生確保

- ・第一学科については教員が近隣の高等学校 31 校を訪問し、当校に入学してきた学生の近況を報告し、学校説明会や学校祭について説明を行った。その他に、医学部を含めた埼玉医科大学グループ合同学校説明会に参加し、各施設と連携して学生確保に努めた。また、在校生が出身高校を訪問する「母校訪問」を実施した。
- ・令和 2 年 4 月からはじまる「高等教育修学支援新制度」の認定を受けた。

### 入学試験実施状況

- ・第一学科：推薦入試・社会人選抜・一般入試 I 期・II 期を実施。(志願：245 名、受験者：229 名、合格者：104 名、入学者：81 名)

### 学生指導・国試指導

- ・一年次から計画的に国試受験対策を実施している。特に最終学年においては模擬試験の回数を増やし、その成績結果を個別指導強化に活用した。
- ・令和2年2月16日に第109回看護師国家試験が実施され、第一学科については新卒合格率が91.7%、第二学科の新卒合格率は100%を記録した。今後も学生指導に力を入れていく。

### 就職支援(新卒国試合格者)

- ・看護師国家試験合格者の進路は、第一学科、第二学科併せて102名、内77.5%の学生が埼玉医科大学グループ内の関連病院に就職した。今後もグループ内の看護師安定供給に尽力する。